

## 「災害が少ないからこそ」

三豊市立桑山小学校 六年 秋山 聰志 さん

僕の住んでいる香川県は他の県よりも降水量が少なく、大きな災害などがあまり起きません。香川県の年間降水量を調べてみると、約千百五十ミリと全国平均値を大幅に下回っています。しかも災害発生件数も全国的に見ても少ない方だと言えます。僕も今まで大きな災害に見舞われたことは一度もありません。だから「香川県は災害が起きなくて安全。」だと思っていました。ですが何年か前にテレビの映像で西日本豪雨や土砂崩れを見たとき、この考えが変わりました。大雨の後、崩れた土砂が住宅を覆い、人々が瓦礫や泥の中で必死に探索しているところを見て、とても衝撃的でした。僕も小さい頃、川に流されたことがあります。同じような経験をしたので被害にあつた人の怖さがよく分かりました。後のインタビューで「自分の住んでいる町でこんなことが起こると思わなかった。」と被害にあった多くの人がこう答えていました。だから僕は「どれだけ災害が起こらなくても災害は起こるものなのだ。」と改めて考えました。

まず土砂崩れとは大雨や地震などの影響で山やがけ崩れ、土や石、木が一気に流れ落ちる現象です。香川県には平野が多いですが、山地も多く、特に讃岐山脈や三豊市の山間部などは急な斜面が多い地域です。三豊市にある僕の学校の近くにも山があり、土砂崩れが起きると巻きこまれるかもしれません。実際香川県でも過去に土砂災害が起きています。二〇十四年八月の台風11号では、土庄町や小豆島で大規模な崖崩れが発生し、住宅や道路が土砂に覆われました。香川県が発表した情報によると、県内には「土砂災害警戒区域」が八千三十八ヶ所、「特別警戒区域」が六千六百十二ヶ所もあります。「香川県は災害発生件数が少ない」というイメージとは裏腹に多くの場所が土砂災害の危険を抱えていると示しています。

では、僕たちができる土砂災害が起きる前にできる行動は何でしょうか。第一に自分の住んでいる地域の危険度を知ることです。それぞれの地域に配布される土砂災害ハザードマップには、警戒区域や避難所などが記されています。常に確認しておくといざという時に素早く避難でき、命を守ることにもつながります。第二に大雨の時は、早めの避難行動をとることです。香川県では近年、「大雨特別警報」や「警報レベル四」が出されることがあります。その時点で避難を始めるのでは遅い場合があります。大雨が予想された時点で家族と連絡を取り合い、避難経路を確認しておくことが大切です。第三に防災訓練や地域活動に積極的に参加することです。多くの市町で住民参加型の避難訓練が行われています。避難訓練を普段からしているともし災害が起ったとしても瞬時に行動でき、災害が起きたときへの不安が減ります。

「災害が少ない地域に住んでいる。」ことのように油断をしていると、時に命取りになります。香川県にも八千ヶ所を超える警戒区域がある以上、「自分たちの町は安全。」という思いこみは危険です。大事なのは普段の生活の中で災害の危険を想像し、行動に移すことです。

これからも家族や地域の人と一緒に災害について話し合い、ハザードマップを見て避難場所を確認するなどをして、もしも災害が起きた時に「備えておいてよかったです。」と言えるように、普段の日常から準備を続けたいと思います。香川県は「大きな災害が少ない」とみんなが思っているからこそ防災意識を高く持ち、命とこの暮らしを大切に守っていきたいです。